

平成 2 6 年

第 7 回仙北市議会定例会  
教 育 行 政 報 告

仙北市教育委員会

平成 2 6 年 1 1 月 2 8 日

平成26年第7回仙北市議会定例会の開会にあたり、前回臨時会後の主な事項について、ご報告をさせていただきます。

## 【教育指導課】

### ◇文部科学大臣表彰「学校保健の部」受賞について

中川小学校が、歯と口の健康づくりについて、家庭や医療機関と連携し、長年継続して取り組んできた実践が評価され、平成26年度文部科学大臣表彰を受賞いたしました。

11月6日に、石川県金沢市で開催された「第64回全国学校保健研究大会」の開会式で表彰されました。

### ◇仙北市教育研究大会について

11月14日に、桜木内小・中学校を会場に、仙北市の教職員で組織している仙北市教育研究会が主催する第4回の研究大会を開催いたしました。

当日は、市内小・中学校の教職員190人が一堂に会し、公開授業のほか、全体会、分科会を行いました。全体会では、桜木内小・中学校のこれまでの取り組みなどが発表され、学力向上に向けた授業改善の具体的視点について提案がありました。分科会では、授業や市の重点事項の一つであるふるさと学習について、市内各校の実践を交えながら熱心な協議を行い、大きな成果を上げて終了いたしました。

### ◇中学校生徒の活躍について

11月23日に、大阪市北区のクリスタルホールで開催された「第30回全日本ECC中学生英語暗誦大会全国大会」で、角館中学校の戸澤彩さんが2年生の部門で最優秀賞を受賞しました。

この大会は、英語のスピーチ力や暗唱力を競うもので、戸澤さんは、発音や抑揚、印象などの審査ポイントで最高点を獲得

し、見事栄冠に輝きました。

## 【公民館】

### ◇仙北市文化祭について

仙北市文化祭が各地区で盛大に開催されました。今年度は国民文化祭の応援事業として位置付け、10月18日と19日に角館交流センター、10月25日と26日に生保内市民体育館、11月3日に西木温泉クリオンと西木林業者等健康増進施設を会場に行われました。実行委員会をはじめ、芸能・文化団体等が一丸となり、日ごろ積み重ねてきた芸術文化活動の成果や作品の展示、芸能発表などが多数披露され、3地区で延べ1,600人ほどが、地域交流を深めながら芸術文化に親しむことができました。

## 【学習資料館・イベント交流館】

### ◇文化講演会について

11月4日、樺細工伝承館で角館図書館後援会主催による文化講演会が行われました。今回は、地域雑誌「谷中・根津・千駄木」の編集人で、ノンフィクション作家の森まゆみ氏を講師にお迎えし、「青鞥の冒険一女が集まって雑誌を作るということ」と題した講演をしていただきました。明治期に平塚らいてうを中心とした文芸誌「青鞥」と、それにかかわった女性たちについて、また、当時の女性を取り巻く社会環境について詳しくお話していただきました。雑誌編集とともに、地域を意識した森さんの活動を知ることができ、聴講された約100人の方々からは、東京にも地域文化を大切にする人たちの活動があることが分かり、大変意義深かったとの声が聞かれました。

## 【スポーツ振興課】

### ◇2015 FIS フリースタイルスキーワールドカップ秋田たぎわ湖大会について

F I S（国際スキー連盟）のコーディネーターによるインスペクション（現地調査・視察）が、田沢湖スキー場で行われ、ここはロケーションが良くワールドカップの会場の中でも美しい会場の一つになるだろうとのコメントをいただきました。競技会場となる黒森山モーグルコースにおいては、コース中央部の立木伐採及びコース傾斜補正などの整備も終了しております。

また、ワールドカップの関連事業として、秋田県、秋田県スキー連盟、田沢湖高原リフト株式会社などが中心となり、「三浦雄一郎・猪谷千春（いがやちはる）「講演会」 I N秋田実行委員会」（仮称）を組織し、プロスキーヤーの三浦雄一郎氏と冬季オリンピック銀メダリストの猪谷千春氏をお迎えして、講演をいただくことになりました。

講演会は、来年2月15日の秋田市に続き、翌16日に仙北市民会館で開催する予定です。市としても両氏のこれまでの歩みを市内中学生や市民の方々に広く聴講していただきたいと考えております。

ほかにもワールドカップをより良い大会にするため、プレ大会の実施や、選手、コーチ等を対象に、仙北市を紹介するツアーなど、ワールドカップの盛り上げに全力で取り組んで参ります。

#### ◇スポーツ活動状況について

去る9月28日に、神奈川県のカ崎市体育館で開催された、第9回全日本クラス別空手道選手権大会で、高校生重量級の部で角館町の田川颯（たがわはやて）君が、中学生重量級の部で弟の礼（らい）君が、兄弟揃って見事優勝いたしました。二人の今後の更なる活躍が期待されます。

#### 【文化財課】

#### ◇仙北市史跡めぐりについて

11月17日に、「歴史とともに『仙北市』の史跡をめぐる」研修会を開催しました。今回は、西木町の「門屋城」と「古堀田城」に視点をあて、元秋田県教育庁文化財保護室長の大野憲司（おおのけんし）氏を講師に招き、この地域の史跡をめぐりながら、歴史を理解することの大切さを学ぶ機会とすることができました。

当日は、17人の参加があり、講師の説明を受けながら現地を視察しました。その後、樺細工伝承館において、それぞれの城の歴史や敵に攻め込まれた際の防衛拠点としての内容等について詳しく紹介いただき、遠く鎌倉時代へと思いを馳せる意義深い研修となりました。

今後も、視点を変えながら、地域の特徴を活かした歴史関連の研修会等を計画して参りたいと考えております。

## 【角館町平福記念美術館】

### ◇館蔵品展1について

11月9日から11月24日まで、「館蔵品展1」を開催いたしました。平福記念美術館の所蔵作品と寄託されている作品の中から、百穂や穂庵の弟子である画家たちの屏風を主に展示いたしました。鑑賞資料として百穂の屏風下絵も展示しましたので、作品の制作過程もお楽しみいただけたと思います。

期間中の入館者は、253人となっております。

### ◇児童生徒県南美術展について

12月6日から来年1月29日まで、「児童生徒県南美術展」を開催いたします。

この美術展は、今年で37回目を迎える県南で最も規模の大きい伝統のある美術展で、作品が展示された生徒とそのご家族はもちろんのこと、関係者や来館された方々にも大変喜ばれております。

11月29日には、審査委員長を依頼した秋田大学名誉教授の佐々木良三氏を中心に審査会を開催し、入賞作品を決定いたします。子どもたちが一生懸命描いた力作を多数展示しておりますので、たくさんの皆様にご覧いただきたいと思っております。

## 【国民文化祭推進室】

### ◇第29回国民文化祭・あきた2014について

10月4日から11月3日まで開催されました、第29回国民文化祭・あきた2014につきましても、市民の皆さんはじめ、関係者の方々のご協力に心から感謝申し上げます。

国民文化祭は、平成24年8月に第29回国民文化祭仙北市実行委員会を設立し、10の仙北市主催事業を決定いたしました。

本年度に入ってから、「『ブンカ☆ステーション仙北市』から、地域を、東北を、日本を元気に！」と「とびっきりの笑顔で迎えよう！全国のお客様を！！」の二つのスローガンのもと、事業実施に向け、各事業企画委員会等で多岐にわたる検討を重ね本番を迎えました。

「民俗芸能の祭典」については、「青少年東北民俗芸能の祭典」が、10月12日にわらび劇場で開催され、満席となるほどの大盛況でした。地元の番楽で幕が開き、東北6県の青少年10団体が、若々しく元気に芸能を披露し、東北の伝統芸能の底力を感じていただきました。

「飾山囃子と仙北地方のささら大競演会」は、10月26日に絶好の秋晴れの下、JR角館駅前の広場で、身動きが取れないほど大勢の観客の中で行われました。特に飾山囃子の競演最後の演目である踊り子140人による「秋田おぼこ総踊り」や、ささら大競演会フィナーレの「ささらのなでわたり」は、観客を魅了するに十分で、民俗芸能の良さを堪能していただくことができました。

「秋田の文学について知ろう」は、10月26日に角館交流センターを会場に「調べ学習コンクール」表彰式と優秀作品の発表会がありました。応募作品は、個人、グループ合わせて294点で、参加児童・生徒478人の中から最優秀賞3点、優秀賞8点、団体特別賞2点を表彰し、最優秀賞と団体特別賞の作品発表を行いました。

表彰式に続く直木賞作家の西木正明氏と森絵都氏の対談による講演会や、期間中に行われた「秋田にゆかりの作家パネル展」も大好評でした。

10月25日に、市民会館で開催された「佐藤貞子～秋田おばこ物語～」も整理券が早々に無くなるほどの人気で、昭和初期に全国を巡業し、「おばこ節」を全国に広めた「佐藤貞子」の一生を、女優の浅利香津代さんの朗読と、貞子の晩年の弟子である仙北市の高橋キヌ子社中の民謡や手踊りとの共演により、大迫力で描くことができました。

第2部は、北浦の芸能風土に光を当て、古くから伝わる歌い方や演奏のほか、バンド、サンバなど、現代風にアレンジした演目に挑戦しました。フィナーレでは、全出演者に婦人会なども加わり、会場全体で生保内節の大合唱を行い、大きな感動の中で幕を閉じることができました。

「アートdeまちあるき」は、晩秋の角館町の中心市街地の蔵や商店など、まち全体をアートで満たし、市民や県内外の多くの皆様に楽しんでいただきました。この事業は、現代アートを中心とした「ネオ・クラシック！カクノダテ2014」、地元若手作家や中高生の作品と太田家の蔵での音楽会を中心とした「かくのだてまちなかミュージアム」、内町・外町のライトアップをした「光のいざないin角館」、女性市民ボランティアによるまちめぐり案内「アートde角館（まち）めぐり」の4つのイベントが開催されております。開催期間は、10月17日から11月3日までの18日間で、市民の方々はじめ、観光

客の皆さんからも大変喜んでいただくことができました。

「江戸に花開いた秋田の文化」については、平福記念美術館で「秋田蘭画展」を、樺細工伝承館においては、「佐竹北家時代展」を開催しました。江戸に花開いた秋田の美術文化を、秋田蘭画や佐竹北家にまつわる諸資料を通して探る展覧会で、神戸市立博物館等のご協力により盛大に開催することができました。

また、10月5日には、法政大学総長の田中優子氏、西洋近代美術史の第一人者である高階秀爾氏等の絵画研究者や佐竹知事による講演・シンポジウムを開催し、秋田蘭画が江戸絵画史の中で果たした役割や意義を様々な角度から検証し、郷土の偉人、小田野直武や佐竹義躬等の偉大な業績を再確認する絶好の機会となりました。

「田沢湖・角館短歌大会」では、全国から短歌作品を募集し、短歌愛好者相互の交流を図る全国短歌大会を開催しました。

10月11日に、角館の武家屋敷や田沢湖畔を散策する「歌碑めぐり」が行われ、翌12日は、市民会館を会場に、記念講演「歌の力」と題し、佐佐木幸綱氏（歌人・早稲田大学名誉教授）、俵万智氏（歌人）、平野啓子氏（語り部・元NHKキャスター）の3人による鼎談等が行われました。作品は、国内のみならず海外からも応募があり、総数9,298首が寄せられ、日本歌人クラブ、現代歌人協会等のご協力により、詩情あふれるこの地域の風景や歌の世界を全国へ発信することができました。

「大正琴の祭典」は、全国から42団体、約1,500人の出演者の方々をお迎えし、市民会館で開催されました。10月18日のオープニングでは、地元小学生が「ドンパン節」、「生保内節」を大正琴で奏で、これに手踊りが加わり華やかに幕を開けました。19日は、県外の22団体が素晴らしい演奏を繰り広げ、フィナーレでは、地元中学生の歌と県内の大正琴愛好

家が合同で「秋田県民歌」、「今日の日はさようなら」を演奏し、感動のうちに幕を閉じました。

開催にあたり、公益社団法人大正琴協会の後援をいただき、秋田県大正琴連盟、仙北市ボランティア協会、高校生ボランティア、市職員等総出で運営を行いました。帰り際にたくさんのお出演者の方々から「スタッフの方々の心遣いに本当に感謝しています。ありがとう。楽しかった。」との言葉をいただき、大変うれしく思いました。

「内陸線アート」は、秋田内陸線とその沿線に住む人々とのふれあいを通し、地域の魅力を発進することを目的に、地域資源を活用した地域博物館（エコミュージアム）をイメージしながら開催されました。

列車や駅舎等の「アトラッピング」、地域の素材を活用した「落ち葉アート」、グラフィックデザイナーと一緒に作りあげる「紙風船の制作体験」、「案山子アート」、駅間を結ぶ林道での「鉄道と溪流の写真撮影会」を開催し、参加者に大変喜んでいただきました。

「せんぼく『餅っこ三昧』」は、10月26日にかたくり館で開催され、300人を超す来場者で賑わいました。

予約制で実施した定員200人のバイキングは、超満員となり、10時のオープニングから大勢が列をつくり、おつゆ餅、笹もち、あんこ餅など、約30種類の餅料理と地元のがっこを楽しんでいただきました。

郷土芸能披露では、田植踊りや稲穂太鼓など、稲作にちなんだ芸能が披露されました。また、稲刈り後の田んぼに踊り子さんを招いての写真撮影も大人気でした。

「おもてなし事業」では、駅や事業会場・公共施設での「歓迎」ステッカー付きプランターによる花いっぱい運動や、新幹線停車駅でのお出迎えとお見送り、酒や料理の振る舞いを実施しました。3週連続で事業が開催された市民会館では、会館前

にテント村を設置し、特産物を用いた飲食の提供やお土産の販売等を行いました。

このほか、11月3日開催の県のフィナーレイベントでの「角館祭りのやま行事」の曳山（ひきやま）の運行と激突も、集まったたくさんの観客を大いに沸かせることができました。

なお、国民文化祭開催期間中における仙北市全体の入り込み数（純粹な会場への入場客数）は、約55,000人となっております。

期間中は、好天にも恵まれ、各事業が大盛況となりました。最も評価の高かったのは、学生などによるボランティア活動や、各事業、案内窓口などでのスタッフ対応の良さでした。角館中学校3年生や角館高校生、各事業会場、駅前での総合案内など、ボランティアや企画委員、市役所職員等「緑色のスタッフジャンパーの人たち」の対応に高い評価をいただきました。

仙北市では10事業、イベント総数30を実施した訳ですが、県民参加事業や2年前からの国民文化祭応援事業を合わせると、50を越す国民文化祭関連のイベントが市内で開催されたことになります。これらの事業を仙北市の文化として引き継ぎ、今後とも関係団体等と連携、協力しながら、「ブンカ☆ステーション仙北市」を発展させ、地域文化の保存継承と更なる全国への発信を目指して、職員一丸となって邁進して参りたいと思います。

以上、教育行政に関する報告を申し上げましたが、本定例会に提案しております教育関係議案につきまして、慎重審議のうえ、ご可決賜りますようお願い申し上げます、教育行政報告といたします。